

練馬区 学ぼう！
ユニバーサルデザイン

STEP2



はじめる

学ぼう！ユニバーサルデザイン

私たちのまちには、年齢や性別、国籍、体の状態などが違うさまざまな人が暮らしています。この「学ぼう！ユニバーサルデザイン」は、さまざまな問題を解きながらユニバーサルデザインについて学ぶことのできる教材です。

ユニバーサルデザインを学ぶことは、多様性への気づきや、自分とは違う立場の人のことを考えるきっかけになります。

自分にどんなことができるのかを考えながら問題に挑戦してみましょう。

■ 教材の流れ

- ① 次ページ以降では、ユニバーサルデザインに関する説明が出てきます。ぜひ、読んで考えを深めてみましょう。
- ② 途中、3択式の問題が出題されます。問題を読み、3つの選択肢の中から正解だと思うものを選んでください。
- ③ 次のページでは、正解と解説を読むことができます。

※ 問題は全部で6問です。

次へ進む

バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

特定の人 バリアフリー

高齢者や障害者が社会生活を送るうえで、障壁（バリア）となるものを取り除く



すべての人 ユニバーサルデザイン

年齢や性別、障害の有無等に関わらず、できるだけ多くの人利用しやすいこと



バリアフリーは高齢者や障害者などの特定の人を対象となっているのに対して、ユニバーサルデザインは『すべての人』が対象です。たとえば、けがや病気で体が不自由になったり、外国に行ったとき、言葉が通じなくて困ったりすることがあります。このように、さまざまな状況の人がいて、自分や周りの人も困る状況になるかもしれないということを前提に、年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などに関わらず、より多くの人利用しやすい製品や環境、考え方をすることがユニバーサルデザインの大きな特徴です。

次へ進む

ユニバーサルデザインがある理由

私たちのまちには、子育て中の人・高齢者・障害者・外国人など、さまざまな人が暮らしています。高齢者や障害者などは、生活をする中で困りごとを感じる時があります。

大きな段差や、
階段は困るなあ…



バスの乗り降りが
大変なのよね。



日本語の案内だけだと、
わからないんだ！



文字が大きくないと、
読めない…



放送があっても、
気づけません。



ずっと立っていると、
大変なんです。



次へ進む

ユニバーサルデザインがある理由

さまざまな状況の人がいて、自分や周りの人も困る状況になるかもしれない。

だからこそ、最初からすべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインが必要なのです。



私たちは、誰もが快適に過ごせる・利用できる環境の整備や、行動を変えていく必要があります。

次へ進む

問題① 社会にあるバリア

社会には、4つのバリアがあります。

『環境のバリア』 『情報のバリア』 『制度のバリア』

あともう1つは何でしょうか。下記から、当てはまるものを選んでください。

A. 年齢のバリア

B. 意識のバリア

C. 地域のバリア

A

B

C

問題① 社会にあるバリア

正解は ... **B** 意識のバリア

社会には主に、環境・情報・制度・意識の4つのバリアがあると言われています。

環境のバリア

段差や階段などの、
物理的環境のバリア



情報のバリア

受け取れるはずの情報
が受け取れないなどの、
情報のバリア



制度のバリア

社会のルールや制度に
よって、機会の均等を
奪われる制度のバリア



意識のバリア

サポート方法を知らない・
多様性への理解不足から
起こる意識のバリア



私たちは、社会にあるそれぞれのバリアに気づき、解消をしていくことが求められています。
ここからは、具体的なバリアが何かを考えてみましょう。

次の問題へ

問題② 環境のバリア

下のイラストの中で、環境のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。



2つ

3つ

4つ

問題② 環境のバリア

正解は ... 4つ



ポイント解説

- 1 段差をスロープにすることで、車いすユーザーやベビーカー利用者に配慮されています。
- 2 点字ブロックが案内所まで途切れずに敷かれています。
- 3 商品棚が低くなりました。高齢者や背の低い子どもでも商品を手に取りやすいです。
- 4 通路幅が広くなることで、高齢者やベビーカー利用者、車いすユーザーも通りやすくなりました。

たとえば段差や階段は、車いすユーザーにとっての環境のバリアとなり、スロープやエレベーターが設置されることが配慮になります。スロープやエレベーターの設置は、高齢者や妊婦のように足元に注意が必要な方や、ベビーカー利用者にとっても配慮となります。障害者にとっての配慮は、さまざまな人への配慮につながるのです。

次の問題へ

問題③ 情報のバリア(1)

下のイラストの中で、情報のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。



2つ

3つ

4つ

問題③ 情報のバリア(1)

正解は ... 2つ



ポイント解説

1 音声案内だけでは、耳が聞こえにくい人には伝わりません。困っている人が近くにいる場合は、**筆談などでコミュニケーション**をとりましょう。**スマホやタブレットを使ってコミュニケーション**を取ることも、効果的です。

2 日本語表記だけの案内では、外国人旅行者などは内容がわかりません。**多言語表記の案内板**が増えてきています。

電車内には、ドアの上に行先や停車駅、開くドアの方向などを知らせる案内表示（車内ディスプレイ）があります。案内表示は、聴覚に障害のある人への配慮になるとともに、多言語表記をすることで外国人にも配慮されています。電車内で音楽を聴いている人も多く、みんなにとって便利なものになっています。

次の問題へ

問題④ 情報のバリア(2)

情報のバリアは、受け取れるはずの情報を受け取れないことだと学びました。
では、下記の中で情報のバリアに配慮されているのはどの事例でしょうか。
当てはまるものを選んでください。

A. とにかく大きな声で話すようにする

B. ポスターをつくる際は、色使いに気をつける

C. 文字を紙いっぱいに大きくして表示する

A

B

C

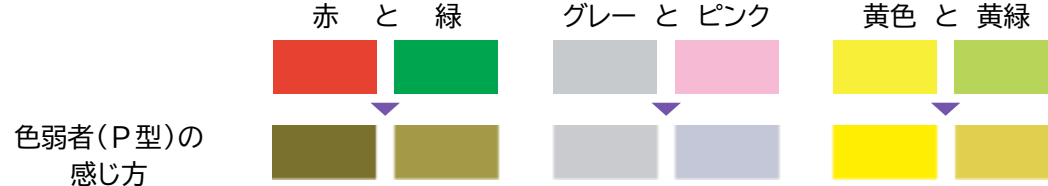
問題④ 情報のバリア(2)

正解は ... **B** ポスターをつくる際は、色使いに気をつける

印刷物のユニバーサルデザイン

皆さんは、色覚に特性のある人がいるのをご存じでしょうか。人によっては、赤と緑がほぼ同じ色に見えてしまうなど、色の見え方もさまざまです。そういった方への配慮として、カラーユニバーサルデザインと呼ばれるものがあります。多くの人が見分けやすい色を使う配慮です。

見分けにくい色の例



色の配慮の他にも、文字の形や大きさなど、多くの人に読みやすくするためにできることがあります。

練馬区では、印刷物のユニバーサルデザインガイドラインを作成しています。興味のある方は、ぜひ読んでみてください。



練馬区 印刷物のユニバーサルデザイン (UD) ガイドライン

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/koho/oshirase/yunibasarudezaingaid.html>

次の問題へ

問題⑤ 意識のバリア

下のイラストの中で、意識のバリアになっているものはいくつあるでしょうか。



2つ

3つ

4つ

問題⑤ 意識のバリア

正解は ... 4つ

ポイント解説

1 困っていそうな人がいたら、**お声がけ**をしてみましょう。

2 **点字ブロックの上には自転車**を置かないようにしましょう。視覚障害者がぶつかってしまうなど、危険です。

3 けがや障害などで左側の手すりにつかまることができない人もいます。**エスカレーターは歩かず、手すりにつかまり、止まって乗りましょう。**

4 エレベーターは誰にでも便利なものですが、エレベーターを必要としている人がいます。**車いすユーザーやベビーカー利用者に譲りましょう。**



意識のバリアは、点字ブロックを防がないことや、エレベーターを譲るなど、皆さんの行動ですぐに解消することができます。困っている人を見かけたら、ぜひお声がけをしてください。

次の問題へ

問題⑥ さまざまなマーク

ユニバーサルデザインに関する、さまざまなマークを知っていますか？

右のマークには、どんな意味があるでしょうか。



A. 補助犬がいる家に掲示するマーク

B. 補助犬の受け入れに対して、Welcome だという姿勢を示すためのマーク

C. 補助犬の受け入れをする店舗に掲示するマーク

A

B

C

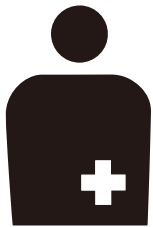
問題⑥ さまざまなマーク

正解は ... **B** Welcome だという姿勢を示すためのマーク



ほじょ犬マーク

「補助犬の入店可否を表すもの」と誤解している方がいます。2002年身体障害者補助犬法の施行以来、補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）は不特定多数の方が利用する施設では、受け入れが義務付けられています。つまり、「ぜひ来てくださいね」というお店側の気持ちを表すマークです。



オストメイトマーク

オストメイト（人工肛門・人口ぼうこうを造設した方）を示すマークです。オストメイト対応のトイレ等の設備があることを示す場合に使用されています。



ヘルプマーク

義足や内部障害、難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲に配慮を必要としていることを知らせることができるマークです。

次へ進む

よりよいまちづくりに向けて

すぐにできる配慮①

お声がけをして、サポートしましょう



すぐにできる配慮として、お声がけがあります。
困っている人を見かけたら、「何かお手伝いしましょうか？」と気軽にお声がけを試みましょう。もし「お願いします」と言われた場合は、どのようにお手伝いしたらいいのかを聞いてみましょう。少しのコミュニケーションが、意識のバリアを解消します。

すぐにできる配慮②

社会にあるバリアに気づく



社会の中にあるバリアに気づくことも大切です。ここは危ないのではないか、困る人がいるのではないかなど、日常生活の中で社会にあるバリアを意識し、どうすれば取り除くことができるのか考えてみることで、さまざまな人がともに暮らしやすいまちづくりの第1歩になります。

結果をみる

受講結果

練馬区 学ぼう！ユニバーサルデザイン STEP2

回答数	うち正答	正答率
6問	6問	100%

／ どうでしたか？間違えてしまった人は、ぜひ再挑戦してみてください！ ／



おわる